

令和 7 年枚方市教育委員会協議会 会議録					
開会	令和 7 年 3 月 24 日午前 11 時 00 分		閉会	令和 7 年 3 月 24 日午前 11 時 18 分	
案 件					
1	叙位・叙勲について				
2	枚方版 I C T 教育モデルの改訂について				
構成員	教 育 長	谷 元 紀 之	構成員	教 育 委 員	中西 悠子
	教 育 委 員	近藤 孝		教 育 委 員	大中 智恵
説明員	理 事	乾 口 里 美	説明員	都市整備部副参事 (施設整備担当)	津熊 聖博
	副 教 育 長	岩谷 誠		学校教育部副参事 (学校総合支援担当)	中野 雅央
	総 合 教 育 部 長	今 市 将和		公立保育幼稚園課長	中道 直岐
	学 校 教 育 部 長	新保 喜和		施 設 計 画 課 長	森 清太郎
	子 ども 未 来 部 長	田 中 哲 夫		教 育 政 策 課 長	笠井 二郎
	都 市 整 備 部 長	中 村 克 俊		放課後子ども課長	交久瀬 有里
	総 合 教 育 部 次 長	大 西 佳 則		児 童 生 徒 課 長	倉 田 仁 司
	学 校 教 育 部 次 長	河 田 典 子		教 育 研 修 課 長	永 山 宜 佑
	学 校 教 育 部 次 長	井手内 太吾		学 校 支 援 課 主 幹 (教育支援専門官)	木 村 聡
	子 ども 未 来 部 次 長	松 下 秀 人	記 録	教 育 政 策 課 課 長 代 理	高松 健大
	都 市 整 備 部 次 長	新 田 一 嘉	傍聴の人数		1 人

○谷元教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

事務局からの報告案件ですが、案件1「叙位・叙勲について」説明をお願いします。井手内学校教育部長。

○井手内学校教育部長 案件1「叙位・叙勲について」ご説明いたします。

協議会資料5ページをご覧ください。1. 概要ですが、枚方市立小中学校の元校長について、その功労に対し叙位・叙勲が行われましたので報告するものでございます。

2. 内容についてですが、叙位といたしまして、正六位を叙勲といたしまして、瑞宝双光章を元枚方市立春日小学校長、故後藤隆先生が受章されました。

また、叙位といたしまして、正七位を叙勲といたしまして、瑞宝双光章を元枚方市立長尾中学校長、故中野忠雄先生が受章されました。

3. その他といたしまして伝達を済ませております。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件1「叙位・叙勲について」の説明とさせていただきます。

○谷元教育長 この件について、ご意見・ご質問等ございませんか。

ご質問等がないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

続きまして、案件2「枚方版ICT教育モデルの改訂について」説明をお願いします。

永山教育研修課長。

○永山教育研修課長 枚方版ICT教育モデルの改訂についてご説明いたします。

協議会資料の7ページをご覧ください。まず、経過につきましてご説明します。本市では、国のGIGAスクール構想の下、令和2年に市立小中学校児童・生徒及び教職員に1人1台端末を配備しました。これからを生きる児童・生徒に必要な資質・能力を育成するために、1人1台端末を活用した枚方市のめざす教育を教職員、児童・生徒、保護者、市民等に広く周知することを目的に、「枚方版ICT教育モデル」を令和3年3月に初版を策定いたしました。その後、GIGAスクール構想の推進や生成AIの普及等に伴い、本モデルを都度改訂しております。

2. 内容について、今回の主な改訂箇所は資料に記載のとおりです。詳細については別添資料にてご説明します。

9ページ、「枚方版ICT教育モデルの改訂について」をご覧ください。資料の左側には該当ページを抜粋して掲載しています。変更部分が分かりやすいように、加除修正箇所を赤字下線にしておりますが、確定した段階で黒字に戻します。

1点目についてですが「(2) 枚方版ICT教育モデルの位置づけ」において「枚方市教育大綱」及び「枚方市教育振興基本計画」の改訂に伴い内容を更新しています。特にICTの利活用に関連する部分を抜粋して掲載しております。

次に、10ページをご覧ください。2点目についてですが「(5) 1人1台端末と健康」内に、目と姿勢に関する内容について、枚方市立西小学校及び楠葉西中学校の養護教諭が作成した「保健だより」や保健室前の掲示物等を実践事例として掲載しております。

次に11ページをご覧ください。3点目についてですが、「(7) 生成AI『も』学びのパートナー」内に、令和6年度に枚方市立小中学校10校で実証を行った校務生成AI実証事業の実

践事例の内容をステップごとに整理し掲載しております。

最後に、12 ページをご覧ください。令和 6 年 2 月に大阪府が策定しました「大阪府情報活用能力ステップシート」の構成や特徴を掲載しております。こちらのステップシートについては、令和 7 年度の教職員研修でも取り扱い、教職員の授業改善に生かしてまいります。

資料の 8 ページにお戻りください。3. 実施時期等について。今後のスケジュールですが、市立小中学校に通知した後、学校を通じて教職員、児童・生徒、保護者に周知いたします。また、枚方市教育委員会ブログ等に掲載し情報発信を行います。来年度の教職員研修等でも活用を図る予定です。以上で説明を終わります。

○谷元教育長 この件について、ご意見・ご質問等ございませんか。近藤委員。

○近藤委員 それでは 11 ページに記載の「生成 A I 『も』 パートナー」について質問させてい

たきます。今年度、市立小中学校 10 校で教職員が校務で生成 A I を活用する事業を行ったと伺いましたが、利用後の教職員アンケート調査でも、86.2%の教職員が校務での生成 A I 活用を実感する結果であったと記載があります。生成 A I につきましては、企業等では業務で活用されているようですが、教育においても、その良さや留意点について子どもだけでなく大人も学ぶ必要性を感じております。

そこで、本実証における成果と課題、今後の展望についてお伺いいたします。

○谷元教育長 永山教育研修課長。

○永山教育研修課長 本実証は、教職員が生成 A I を校務で活用することを通して、事務作業の負担軽減や業務の効率化の可能性を検証することを目的に実施いたしました。成果としては、生成 A I を校務で活用した実践事例を 90 事例創出することが挙げられます。それらの事例を作業工程ごとに整理し、教育委員会 ICT ポータルサイト「G i G A スク！ひらかた」に掲載することにより、教職員がいつでも閲覧したり、自身の実践に生かしたりできる環境を構築いたしました。また、生成 A I が発揮できる活用場面が分かり、特に、振り返りやアンケートの自由記述の分類や要約、日本語資料を外国にルーツのある児童・生徒に合わせた言語に変換する作業につきましては、生成 A I を活用することで業務の効率化を図ることができました。

課題につきましては、国が示す生成 A I ガイドラインに基づき、教職員や児童・生徒の情報リテラシーの一層の向上を図ることです。例えば、生成 A I が得意とすることや苦手とすること理解したり、生成 A I が出力する情報についての真偽を正しく判断する力の育成が必要だと考えます。児童・生徒の情報リテラシー向上に向けては、教職員が普段の授業から 1 人 1 台端末を活用しながら指導することが重要です。教職員研修でも生成 A I をテーマに教職員が学ぶ機会を設定する予定です。

今後の展望については、国が示す生成 A I 利活用に関するガイドラインに基づき、児童・生徒が安全に生成 A I を授業等で活用できる環境構築を検討していきたいと考えております。

○谷元教育長 近藤委員。

○近藤委員 それでは、意見を述べさせていただきます。

「頭脳と A I 研究」の一人者であります東京大学教授の池谷教授の講演の中で、ご自身のご子の家庭教師としても A I 活用をしておられるようでしたが、今ご回答いただきました A I の可能

性検証で校務活用実践事例として 90 事例も創出できたこと、あるいは活用場面での優位な点、課題となる点をお示しいただきありがとうございます。A I から出力される情報の真偽を正しく判断する力につきましても必要性を述べていただきましたが、現代社会のネット上でのフェイク動画、フェイクニュース、誹謗中傷等の危険性を周知することをしていただき、今後さらに進化していくであろう生成A I の活用と並行し、活用する折の情報リテラシーの向上も常に図ることなど、いろいろとよろしくお願い申し上げます。

○谷元教育長 本件に対するご意見、ご質問等はございませんか。本件に対するご意見、ご質問は、この程度にとどめます。

それでは、本日の協議会の案件は、以上となりますので、協議会を終了します。